



## 主張

# これからの時代に求められる学校、教職員とは

有 江 禎 裕

平成が終わり新たな時代が訪れようとしています。私たち教師を取り巻く環境は、大量退職・大量採用、学校教育課題の多様化・複雑化、ICT等の新たな課題への対応等々、目まぐるしく変化しています。私たちは、社会の大きな変化とともに今後の教育政策の方向性を確認し、教育を推進していく必要があります。

昨年公表された第三期教育振興基本計画の中で、社会の現状や二〇三〇年以降の変化等を踏まえ、取り組むべき課題から今後の教育政策の重点事項が次の二点示されています。

○「超スマート社会（Society 5.0）」の実現に向けた技術革新が進展する中「人生一〇〇年時代」を豊かに生きていくためには、「人づくり革命」「生産性革命」の一環として、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要

○教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組む

さらに、五つの教育政策に関する基本的な方針ごとに、政策目標、測定目標・参考指標、施策群も示されています。また、Society 5.0における学びの在り方、求められる人材像、取り組むべき政策の方向性、リーディングプロジェクトを見れば、学校の「学び」が変わっていくことが予想できます。



今、教員の勤務実態が大きな問題となり、それを改善するために学校における働き方改革が、全国一斉にスピード感をもって進められています。これからの超スマート社会の中でたくましく生き抜いていく人材を育てるためには、育てる教師が必要とされる学びの在り方を熟知し、文部科学省が示しているような内容を日々具体的に実践し続けなければなりません。その実践のためには、相当な時間とエネルギーをかけ、新たに学び、準備することが不可欠です。教職員がその時間とエネルギーを確保できるように、これまでの学校教育文化を抜本的に見直すことも含め、環境整備を行わなければなりません。ですから、働き方改革は最重要課題、急務です。環境整備が行われれば、教職員一人一人にこれまでより時間をもてるようになります。しかし、新たな視点での内容を含め多様な教育政策を実践し効果を生むためには、専門性や様々な分野で高い能力をもつ個々の教職員が、各々で動いても限界があります。そこで組織としての学校、いわゆる「チーム学校」の存在が必然となります。そして、この「チーム学校」の中で、「主体的・対話的で深い学び」を確実に実現することのできる教職員を育成することが次の課題です。この課題解決のためには、教職員の研修体制、研修内容等を効果的に実践できる校長の「リーダーシップ」と「マネジメント力」が強く求められるでしょう。

「人が人を育てる」という言葉があります。これからの社会の中でAIがどれほど台頭してきても、人を育てるのは人です。「人格の完成」を目指して子供たちを育てることは、私たち教師の使命です。崇高で壮大な使命だからこそ、様々な変化に柔軟に対応できる資質・能力をもち、いつまでも「学び続ける教師」が求められるのです。今後、これまでの学校教育の成果の上に、「魅力ある教師が、魅力ある学校で、魅力ある人を育てる」ような日本の教育が展開されることを切に望みます。（全日中副会長・熊本市立託麻中学校長）